

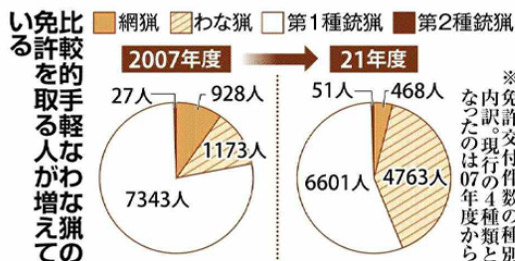


年 組 名前

# 道新 ワークシート

## 狩猟免許交付 増加

### 食害対策や報奨金・手軽な「わな」中心



道内で狩猟免許を取る人が増えている。直近3年間は平均は約1万1900件と過去最少の2006年度の1・4倍。農林業被害対策の強化や狩りブームなどを背景に、比較的始めやすいわな猟を選ぶ若い層が多い。ただ、人里への出没で

## ヒグマ駆除担い手は不足

必要性が高まっているヒグマ駆除の担い手確保にはつなごうと、専門家は行政主導でハンター育成に力を入れるよう訴える。狩猟免許は4種類。鳥やウサギを捕る網猟、エゾシカなどに使うわな猟、殺傷能力が高くヒグマ駆除に

用いるライフル銃など第1種銃猟、鳥などを狙う空気銃の第2種銃猟がある。道内では1980年前後に約2万件あった交付件数は、野生動物保護の動きや猟銃規制強化で減少し、06年度には約8500件となった。

13年度にはハンターの報奨金制度も始め、自治体がつくる協議会を通じ、エゾシカなら1頭7千円を上

限に支給している。こうした施策も背景に道内の交付件数は19・21年度約1万1900件で堅調に推移。全国は06年度の18万5千件に対し、直近の19年度は21万5千件と1割多い。伊吾田准教授は「農業被害増加や報奨金に後押しされ若い層が銃猟よりハードルの低いわな猟を始めた可能性が考えられる」とみる。

アウトドアブームや野生鳥獣の肉「ジビエ」人気も一役買っているようだ。酪農学園大では20年、有害駆除などを行うサークル「狩り部」が発足。4年生の

マ駆除に当たる人材が求められている。道は16年、駆除の実践を通じて若手ハンターを育てる「人材育成捕獲」を開始。今年2月から

酪農学園大の伊吾田准教授(狩猟管理学)や道によると、交付件数が再び増え始めたのは06年度以降で、エゾシカの農林業被害額が急増した時期と重なるという。国は08年度に鳥獣被害対策の交付金をつくらせて免許講習を開いたり、わな猟の購入を支援したりし

た。13年度にはハンターの報奨金制度も始め、自治体がつくる協議会を通じ、エゾシカなら1頭7千円を上

限に支給している。こうした施策も背景に道内の交付件数は19・21年度約1万1900件で堅調に推移。全国は06年度の18万5千件に対し、直近の19年度は21万5千件と1割多い。伊吾田准教授は「農業被害増加や報奨金に後押しされ若い層が銃猟よりハードルの低いわな猟を始めた可能性が考えられる」とみる。

マ駆除に当たる人材が求められている。道は16年、駆除の実践を通じて若手ハンターを育てる「人材育成捕獲」を開始。今年2月から

狩猟免許 網、わな、第1種銃猟、第2種銃猟の4種類とも国家資格で、知識、適性、技能の三つの試験に合格すると取得できる。3年ごとの更新が必要。網猟とわな猟は18歳から、銃猟は20歳から受験できる。実際に猟をするには都道府県に狩猟者登録を行う。特に銃猟は、都道府県公安委員会の許可を得なければならない。

めたが、21年度は6割足らずに減少。わな猟は1割から4割に増えた。わな猟の講習を行うNPO法人ファームサポーター北海道(見沼)によると、十勝後志管内など、畑作が盛んな地域を中心に若手農家の受講者が増えているという。



年 組 名前

---

# 道新で ワークシート

① グラフから読み取れる内容として正しくないものを一つ選びなさい。

- ア 2007年度と比較すると、21年度は狩猟免許を取得した人の数は増加している。
- イ わな猟の免許を取得した人は、21年度は2007年度の4倍以上になっている。
- ウ 銃を使う猟の免許を取得した人は、2007年度のほうが21年度より多い。
- エ 免許交付件数の増加に伴って、エゾシカの農林業被害額は年々減少している。

② ヒグマを駆除するためには、どの狩猟免許を取得する必要がありますか。